

DL- 2

- (1) ①④について、正誤を調べる。
- ① 散布図において、右上がりの直線のまわりに点が集まる傾向がみられる。よって、①は正しい。
 - ② 散布図において、最も左にある点は最も下にある。よって、②は正しい。
 - ③ 散布図より、身長が180cm以上の選手は4人以上いる。よって、③は正しい。
 - ④ 散布図より、体重が75kg以下で身長が175cmより高い選手がいる。よって、④は誤り。
- 以上により、散布図から読み取れることとして正しいと判断されるものは、①、②、③である。
- (2) 散布図において、右上がりの直線のまわりに点が集まる傾向がみられ、その直線に点が接近している。したがって、身長と体重には正の相関があり、相関が強い。よって、相関係数は0.7 (③) ぐらいである。
- ←.....A, B
- (3) 身長とゴール数の散布図を散布図1、体重とゴール数の散布図を散布図2とする。
- ① 散布図1において、右上がりの直線のまわりに点が集まる傾向がみられるから、正の相関がある。 ←.....A
よって、①は正しい。
 - ② 散布図1より、身長が高いほどゴール数が多い傾向がみられるが、ゴール数の多い原因が身長が高いことや体重が軽いことかどうかはわからない。 ←.....C
よって、②は正しいと判断できない。
 - ③ 散布図1の方が散布図2よりも、右上がりの直線のまわりに点が接近している。ゆえに、身長とゴール数の相関係数の方が体重とゴール数の相関係数より大きい。 ←.....B
よって、③は正しい。
 - ④ 体重とゴール数の相関係数は負であると判断できない。したがって、体重とゴール数の共分散は負であると判断できない。よって、④は正しいと判断できない。
- 以上により、2つの散布図から読み取れることとして正しいと判断できないものは、②、④である。

A 散布図において、右上がり（右下がり）の直線のまわりに点が集まる傾向がみられるとき、2つの変量には正（負）の相関がある。

右上がりや右下がりの直線のまわりに点が集まる傾向がみられないとき、2つの変量には相関関係がない。

B 2つの変量について、正（負）の相関があるとき、相関係数の値は正（負）である。
右上がりの直線のまわりに点が接近しているほど相関係数は大きくなる。

C 相関を調べただけでは、因果関係については判断できない。